

平成 22 年 4 月の解説（府県天気予報）

【4月の天候状況】

上旬は低気圧が2～3日おきに本州付近を通過し、天気はほぼ全国的に短い周期で変わりました。2日は低気圧や前線の影響で、関東地方を中心に荒れた天気となりました。中旬は低気圧や前線の影響で、全国的に曇りや雨の日が多くなりました。また強い寒気が日本付近に流れ込んだため、17日は関東甲信地方から東北地方南部で降雪を観測し、最も遅い降雪の記録と並んだ気象官署もありました。下旬は高気圧と低気圧が交互に本州付近を通過したため、天気はほぼ全国的に数日の周期で変わりました。また引き続き強い寒気が流れ込んだため、気温が全国的にかなり低くなりました。

月を通しての日照時間は全国的に平年よりかなり少なくなり、月間日照時間の最小値を更新した気象官署がありました。降水量は東・西日本を中心に平年よりかなり多くなり、月降水量の最大値を更新した気象官署がありました。沖縄地方では平年並みとなりました。気温は東・西日本を中心に平年よりかなり低くなりました。

【4月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報で87%と例年^(注)より2ポイント、明後日予報では84%と例年より3ポイント高くなりました。地域毎の適中率では、明日予報は、北海道と関東甲信、東海、近畿地方で例年より5から7ポイント高くなりました。明後日予報は、関東甲信、東海、九州北部、沖縄地方で6から10ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は、例年に比べて北日本と関東甲信、東海地方で0.5 から0.8 小さくなり、全国平均では0.3 小さい1.7 でした。また、最低気温の予報誤差は全国的にほぼ例年より0.2 から0.4 小さくなり、全国平均では例年より0.2 小さい1.4 でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6月の天気予報の利用にあたって】

6月は梅雨の季節です。5月には南西諸島に停滞していた梅雨前線が次第に北上して本州付近に停滞することが多くなり、6月上旬に各地で次々と梅雨に入ります。一方、南西諸島では6月下旬に梅雨が明けます。平年値ではこのような経過をたどりますが、梅雨入りの時期は年によって大きく異なります。2007年の関東甲信地方（東京）は6月22日に梅雨入りしましたが、2008年は5月29日に梅雨入りしました。

梅雨入りしたからといって毎日曇りや雨の日が続くとは限りませんが、しばしば大雨となり、土砂崩れやがけ崩れ、洪水や浸水による被害が発生します。雨の天気予報が出ている場合は、大雨や洪水についての警報や注意報、気象情報などに十分注意してください。